

「りそな銀行」大阪大学 金融・保険研究センター ミニ・レクチャーシリーズ講義内容

日時・時限		テーマ	講師	概要
11/21	4	流動性預金モデルの現状と今後の展望	上武	銀行 ALM において、資産の管理手法については従来から研究がなされているが、負債の管理手法については重要性が高いにもかかわらず発展途上である。特に預金の約半分を占める流動性預金をどのようにモデル化するかが課題となっている。講義では、現在一般的に用いられているモデルや開発途上のモデルを紹介する。
	5	株式ポートフォリオの理論・実務（年金資産運用）	南	年金資産運用における株式運用を概観する。ファクターティルトポートフォリオのポートフォリオ構築手法や各種トピックス（アクティブ運用の基本法則・分離定理）につき解説する。
12/5	4	統合リスク管理	松井	銀行経営の健全性、限られた経営資源の中で収益の極大化を目的に「統合リスク管理」と呼ばれるリスク管理手法を導入している。統合リスク管理の枠組みとその実務を解説する。
	5	信用リスク管理	阿部	与信先の信用状態の変化に伴い損失を被るリスクが信用リスクであり、一般的に信用 VaR の手法より定量化される。その前提となる計測モデル、計測方法、パラメータの考え方や推定方法は様々であるが、実務での事例を紹介するとともに、高度化への取り組みを紹介する。
12/19	4	金融危機後のデリバティブ評価手法の変化	荒川	金融危機後、デリバティブ取引を取巻く環境が変化し、担保差入慣行の進展や、清算機関の設立等信用リスクが重視されている。これに伴い、デリバティブ評価手法にも変化がみられ、最近の評価方法の潮流について解説する。
	5		荒川	信用リスクを加味したプライシング手法として脚光を浴びている CVA について概説する。更に金融危機後ボラティリティスマイルが一層重要視されており、これに対しても柔軟に対応できる金利モデルであるマルコフ・ファンクショナルモデルについて解説する。

<講師>

常務執行役員

松井 浩一

リスク統括部 金融テクノロジーグループ グループリーダー

荒川 研一

リスク統括部 リスク統括グループ クオンツアナリスト

阿部 達生

リスク統括部 金融テクノロジーグループ

上武 治紀

アセットマネジメント部 投資技術開発グループ チーフクオンツアナリスト

南 聖治